

立会の風

（校長通信）No.13 校長 滝淵 正史

三菱鉛筆によるえんぴつ教室

少し前のことになりますが、11日（金）に、1年生に向けて「えんぴつ教室」が行われました。講師は、三菱鉛筆株式会社の商品開発部のみなさんです。

このえんぴつ教室は、立会小学校の特色ある教育活動の中の一つです。ご存知の通り、三菱鉛筆さんは大井町駅から小学校の方に向かって進んだ、池上通りのところにあります。今は本社機能だけですが、以前は工場もこの場所にあったそうです。

会社としては、自社の看板商品である鉛筆の最大ユーザーの小学生（1年生）に向けて、その正しい使い方を身に付けてもらいたいという思いで、10年ほど前から始まった取り組みだそうです。地元にある会社が、同じ地元にある小学校の1年生に向けて教室を開きたいという思いから、現時点で実施は本校だけの特別教室です。（覚えているかどうかはわかりませんが）全学年の児童が、1年生の時に受けている講座になります。

伺ったところによると、会社がこの大井の地に工場を構えておよそ110年だそうです。本校が今年95周年（当初は駅前のきゅりあんのある場所）ですから、ずっと昔からのご縁になります。（昔は隣同士でした）

教室では、「えんぴつのできるまで」を動画で見た後に、「正しいえんぴつの持ち方」を習った上で、実際に書いてみるという流れです。講師の先生から、「正しい持ち方を身に付けると、手が痛くならないし、きれいな字が書けるようになるよ。」と教わりました。親指と人差し指、中指で三角形を作った、バランスの良い持ち方を教わり、一生懸命手本を見ながら、正しい持ち方を意識して、文字を書いていました。

終了後に、私は、担当の方とお話をしました。「正しいえんぴつの持ち方をきちんと身に付けてくれた児童は、本当に長時間書いても疲れなくなるという実感があるのです。」「1年生の、なるべく早い時期（6月ぐらいまで）に、このような教室ができればいいと思っています。」「将来的には、オンラインの活用で、区内の他の学校でもやれたらいいなと思っています。」などと言うお話とともに、「タブレットのような機器が入ってきても、筆記具、特にえんぴつはとても大切な道具だと思っています。」「小学生には、今よりも更にえんぴつと仲良くしてほしい。」といった思いもお話いただきました。

私たち大人もそうですが、長年筆記具を使っていると、悪い癖がついてしまう場合があります。正しい持ち方を習った経験が、癖を見直さなければならない時に、役に立つといいですね。

